

一斬殺草の美学

水稻用 初・中期一発処理除草剤

イッセン®

1キロ粒剤 豆つぶ[®]250 ジャンボ



野稗のびえ

螢蘭ほたるい

小浮き矢柄こうきやがら

しず蘭しずらん

黒慈姑くろあむら

沢瀉あもだか

多年生雑草を斬る



※1キロ粒剤のみ

※ジャンボ剤を除く

特長

- ノビエ、ホタルイ、多年生カヤツリグサ科雑草に卓効です。
- プロモブチド配合によりホタルイの発生をしっかりと抑制します。
- ピリミスルファンを増量することでイネ科(キシュウスズメノヒエ、エゾノサヤナカグサ)を含む多年性雑草に高い効果を示します。
- フェントラザミドは、田植え同時処理もでき、稲への安全性が高い有効成分です。

適用雑草及び使用方法

2023年10月現在の登録内容

※各有効成分を含む農薬の総使用回数:ピリミスルファン2回以内、フェントラザミド1回、プロモブチド2回以内

■1キロ粒剤(農林水産省登録 第24664号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稻	一年生及び多年生雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布又は 無人航空機による散布
直播水稻	一年生雑草及び ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3葉期 但し、 収穫90日前まで			

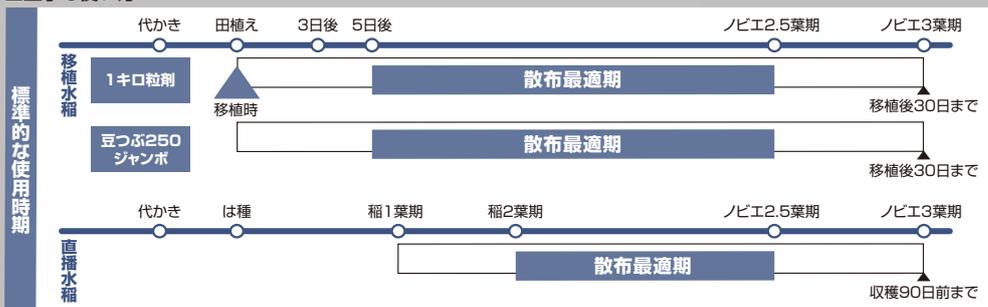
■豆つぶ250(農林水産省登録 第24665号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稻	一年生及び多年生雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ ノビエ3葉期 但し、 移植後30日まで	250g	1回※	湛水散布、湛水周縁散布、 水口施用又は 無人航空機による散布
直播水稻	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3葉期 但し、 収穫90日前まで			湛水散布、 湛水周縁散布又は 無人航空機による散布

■ジャンボ(農林水産省登録 第24666号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稻	一年生及び多年生雑草	移植直後～ ノビエ3葉期 但し、 移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (250g)	1回※	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稻	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3葉期 但し、 収穫90日前まで			

■上手な使い方



■使用上の注意(抜粋)

- 【共通】
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈20cmまで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生初期まで、シズイは草丈3cmまで、キシュウスズメノヒエは再生茎2葉期まで、エゾノサヤナカグサは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離(ジャンボ剤除く)は発生前が本剤の散布適期です。
 - オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないため、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
 - 苗の植付けが均一となるように、代かき及び植付作業は怠りなく行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特に注意して行ってください。
 - 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
 - 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
 - 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - 活潑遊星を生じようとする異常低温の時
 - 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
 - 軟弱苗を移植した水田
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - 稻穴の戻りの悪い水田
 - 直播水稻に使用する場合は以下の点に注意してください。
 - 稲の根が露出した条件下では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
 - 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけてください。
 - 散布した水田の田面水を他の作物の湛水に使用しないでください。
 - 本剤はその殺草特性から、いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意してください。
 - 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考に使用してください。特に初めて使用する場合や異常気象の場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 【1キロ粒剤】
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布してください。
- 【1キロ粒剤・豆つぶ250】
- 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
 - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の開度を調整してください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインバロの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布してください。
 - 水源池、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
- 【豆つぶ250】
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布してください。
 - 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があられないよう注意してください。
 - 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布をさせ、本田内で水田全面に散布してください。
 - 水口に対して向かい風が吹いている場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用をさけてください。
 - 吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早めに使用してください。
- 【ジャンボ】
- 散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
 - 小包装(パック)のまま10アールあたり10個の割合で水田に均一に投げ入れてください。
 - 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため使用はさけてください。
 - パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意してください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。



●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2023年10月現在の知見に基づき作成しています。 2378(24-7)